



SDGs未来都市

東松島市

宮城県

SDGs とは？

SDGs（エス・ディ・ジーズ）とは、2015年9月の国連サミットにおいて採択された、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称です。国連加盟の193か国が2030年までに達成する目標として掲げたもので、持続可能な世界を実現するための17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されています。地球上の誰ひとりとして取り残さない（No one will be left behind）ことを誓い、発展途上国のみならず、先進国も取り組む全世界的なものです。日本もSDGs推進本部を立ち上げて、積極的に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

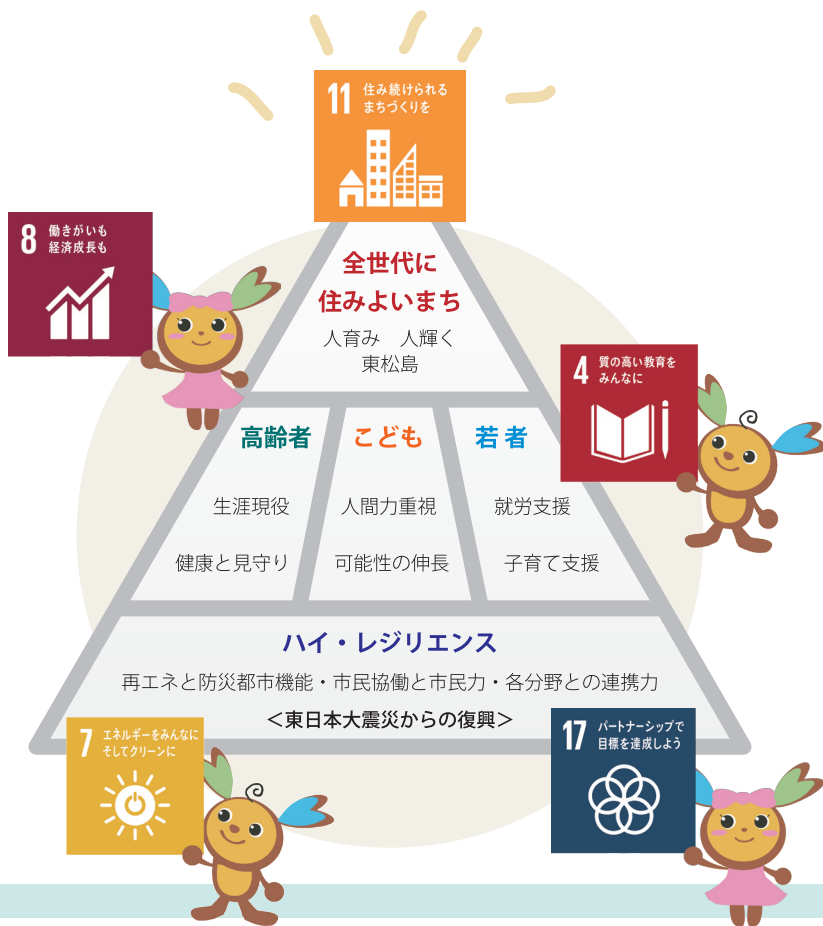


東松島市が目指す SDGs

全世代グロウアップシティ東松島

「SDGs 未来都市」として東松島市が目指す2030年のあるべき姿は、「全世代に住みよいまち」です。今、地方都市では、人口減少を食い止め、地域社会・経済を発展させることが、大きな課題となっています。SDGsを目指すことが、同時にこの地域課題の解決に繋がっていきます。

東松島市は、震災復興により整備された防災力の高い都市基盤と、環境未来都市構想により整備されたスマート防災エコタウンや地域新電力などのシステム、震災時と復興に発揮された市民協働の力などによる高いレジリエンス（強靱性）を基盤とし、SDGsを通じて、こども・若者・高齢者の全世代にわたって住みよいまちづくりを目指していきます。



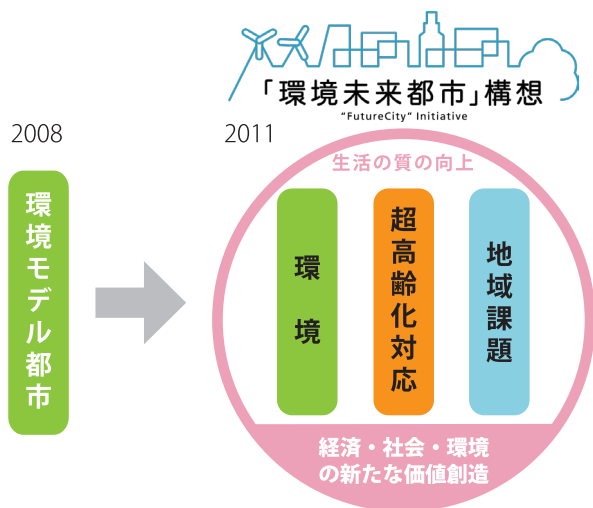
SDGs 未来都市とは？

日本国内におけるSDGsの推進にあたり、内閣府はSDGsの達成に向けて先進的な取組を進める地方公共団体を公募し、2018年6月、応募のあった都市の中から29の地方公共団体を「SDGs未来都市」に選定しました。

SDGs未来都市は、2008年の環境モデル都市構想、2011年の「環境未来都市」構想に続き、それらの構想を発展させた先に来るものと位置づけられており、地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築を目指すものです。



2018/6/15 総理大臣官邸 SDGs未来都市選定証授与式



SDGsは、経済・社会・環境の3つの分野における持続可能な開発を統合的な取組として推進するものです。これまでの「環境未来都市」構想では、早くからこの3つの分野における新たな価値創出によるまちの活性化を目指してきました。この考え方は、SDGsの理念と軌を一にするものであり、SDGsの達成に向けた取組の先行例といえます。

東松島市は、2011年12月に「環境未来都市」として内閣総理大臣から選定され、より良い創造的復興（Build Back Better）を目指して、復興事業を加速させてきました。今回の「SDGs未来都市」の選定を受け、創造的復興とさらなる地方創生を推進し、持続可能で強靱なまちづくりを目指して、全世代の人々が幸せでいきいきと楽しく暮らせるまちを築いていきます。

東松島市の総合計画と SDGs

